

講演者・報告者等プロフィール

【1. 研究報告】「森林の放射性セシウム分布の現状と今後の見通し」

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所
木材研究部門 木材加工・特性研究領域 組織材質研究室長
安部 久 (あべ ひさし)

◇プロフィール-----

1995年に森林総合研究所に入所し現在に至る。その間、国際農林水産業研究センターに出向、スウェーデン農業科学大学に留学する。専門は木材解剖学、樹種識別。2013年より森林の放射性物質に関する研究に携わり、木材中のセシウムの解析を担当する。研究室としては、樹木中のセシウムの移動、セシウムの経根吸収などの研究を行っている。主な著書に共著として『日本有用樹木誌』（海青社、2011年）、『仏像の樹種から考える古代一木彫像の謎』（東京美術、2015年）がある。2017年第57回日本木材学会賞を受賞。博士（農学）。

【2. 福島県の取組報告】「福島県の森林・林業の復興・再生に向けた取組」

福島県 農林水産部 森林計画課 主幹
柳田 範久 (やなぎた のりひさ)

◇取組内容-----

福島県は、東日本大震災と福島第一原子力発電所事故からの森林・林業の復興・再生に向け、森林内の放射性物質のモニタリング調査を継続しながら、森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、「ふくしま森林再生事業」や津波被害のあった海岸防災林の復旧・再生に取り組むとともに、県民参加の森林（もり）づくりを推進。

今回、国内外からの支援に対する感謝と復興に向かって強く歩み続ける福島の姿を紹介。

【3. 応援ビデオメッセージ】「木で再生する日本」

建築家・東京大学教授
隈 研吾 (くま けんご)

◇プロフィール-----

1954年生。1979年、東京大学大学院建築学専攻修了。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。慶應義塾大学教授を経て、2009年より東京大学教授。1997年「森舞台/登米町伝統芸能伝承館」で日本建築学会賞、2010年「根津美術館」で毎日芸術賞、その他、国内外からの受賞多数。近作に「浅草文化観光センター」（2012）、「アオーレ長岡」（2012）、「歌舞伎座」（2013）、「ブザンソン芸術文化センター」（2013）、「FRAC マルセイユ」（2013）、「北京茶室」（2014）、「EPFL ArtLab」（2016）、「ポートランド日本庭園カルチュラル・ヴィレッジ」（2017）等。新国立競技場の設計にも携わる。著書に『自然な建築』（岩波新書、2008）、『日本人はどう住まうべきか？』（養老孟司氏との共著、日経BP社、2012）、『小さな建築』（岩波新書、2013）、『建築家、走る』（新潮社、2013）、『僕の世界』（大和書房、2014）、『広場』（淡交社、2015）など。

【4. 地域の再生に向けた活動事例】

「『参加』でつくる持続可能なみんなの里山

～地域おこし協力隊・移住後の生きる道～」

やまもり会@霊山 会長（福島県伊達市）

玉手 孝行（たまた たかゆき）

◇プロフィール-----

コンセプトは【やまもりで、晩酌を！】で、団体名の由来は「山を守る、山で盛り上がる、未来が希望で“やまもり”になる！」という想いが込められている。地域社会で顕在化している課題を解決し、自分たちがほしい未来をDIYする行動を、若者・女子・爺さん・子どもまでと異世代を巻き込んで楽しく活動中！ 森林資源の活用で、縮小している地域の未来の可能性を伐り拓くために、ひとりひとりがやりたいコトを地域で具現化できるコミュニティを形成中。

やまもり会@霊山（福島県伊達市）

佐藤 悦美（さとう えつみ）

◇プロフィール-----

小さい頃から家にあつて見慣れていたチェーンソー。でも“触ってはいけないモノ”と思い込んでいた。そんなチェーンソーを担いで山に登って木を伐り倒すことになるなんて、自分でもビックリ!!「“3K”だとか“男の仕事”だとか……そんなこと関係なく、やりたいことは何でも、いつでも、どんどん挑戦してイイんだよ!!」そう子どもたちに言えるように、まずは自分が行動する。そして身近に有り余る森林資源を“楽しく”有効活用するべく日々奮闘中。

【5. 座談会】「地域資源とネットワークを活かした地域おこし～福島の再生～」

(有)鈴木農園／(株)まどか菜園(福島県郡山市)

鈴木 清美（すずき きよみ）

◇プロフィール-----

弊社創業以来40年にわたってキノコ作りに取り組む。近年では栽培後の廃培地を利用した循環型農業で枝豆や人参、ワイン用のブドウなどを栽培しており、一部はジュースなどにも加工。また、最近では他産業と連携して畑で一日限りのレストランや、畑を使った様々な活動も実施中。

福島大学 教授

岩崎 由美子（いわさき ゆみこ）

◇プロフィール-----

埼玉県生まれ。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。専門は農村生活論。住民主体の計画づくり、農山村地域活性化、農村女性起業などを研究。主な著書として、『食と農でつなぐ 福島から』（岩波書店、共著）、『<食といのち>をひらく女性たち』（農文協、共著）、『小さな自治体の大きな挑戦—飯舘村における地域づくり』（八朔社、共著）、『女性の参画と農業・農村の活性化』（全国農業会議所）、『成功する農村女性起業』（家の光協会、共編著）など。

◆司会・座談会ファシリテーター

近藤 修一（株式会社エス.ピー.ファーム 代表取締役）

◇プロフィール-----

（株）エス.ピー.ファーム代表取締役。森林・林業人材育成企画コーディネーター。

企業のマーケティング企画・プロデュースを行う会社を経て、「環境コミュニケーション」、「環境教育」、「持続可能な地域社会」をキーワードに 1999 年（株）エス.ピー.ファームを設立。行政、企業、市民の新たなパートナーシップづくりを目指し様々なプロジェクトに参画。平成 19 年度より森林・林業に係る人材育成事業に本格的に参加。主な仕事に「森林施業プランナー育成研修」、「緑の雇用集合研修」、「森林総合監理士育成研修」事業等の企画・運営、講師、ファシリテーション等。